

2010年4月に、神戸製鋼グループの近い将来の企業像を掲げた中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION“G”」をスタートさせて3年が経過しました。この期間、当社グループは積極的なグローバル事業展開に取り組んでまいりました。一方で、事業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、今後の当社グループの成長のためには、再度、経営基盤の整備が必要であるとの考えのもと、これからの3年間とさらにその先を見据えた今後の当社グループの取組みをまとめた、グループ中期経営計画を発表いたしました。その内容を簡単にご紹介いたします。

## 経営基盤の再構築

### ◆鉄鋼事業の収益力強化

- ・生産現場レベルでのコストダウン
- ・安価品調達などによる調達コストダウン
- ・溶銑予備処理設備などコストダウン投資の取込み

### ◆成長分野・地域での販売量の確保

- ・成長分野(自動車、資源・環境、エネルギー、インフラ)、成長市場(新興国、北米など)でのこれまでの3年間に展開を進めてきた海外拠点の最大限活用による最大販売量の確保

### ◆体質強化活動

- ・体質強化委員会を中心に、固定費・調達コスト・品質失敗コストの削減実施

### ◆財務体質の改善

- ・棚卸資産圧縮、債権・資産売却によるキャッシュ創出
- ・投融资案件の厳選

### ◆ものづくり力、技術開発、人材育成強化

### ◆コンプライアンスの徹底と社会貢献

2013年度黒字化

2015年度コストダウン効果600億円  
(2012年度比)

海外売上高比率  
40%  
(2012年度34%)

2015年度コストダウン効果300億円  
(2012年度比)

～2015年  
創出キャッシュ総額  
1,200億円

2015年度末  
DEレシオ 1.3倍

## 収益の安定と事業の成長に向けた布石

### ◇鋼材事業の構造改革

- (鋼材生産の上工程の高効率化)
- ・2017年を目処に、神戸製鉄所の高炉など上工程設備休止し、加古川製鉄所に集約  
(神戸製鉄所は特殊鋼圧延専用工場に生まれ変わり)
- ・加古川製鉄所に最新鋭のブルーム連続鋳造設備、溶鋼処理設備新設、分塊圧延機能増強による競争力強化

### ◇機械系事業の戦略的拡大

- ・圧縮機事業のグローバル展開の強化、建機事業での欧米市場での再参入と強化などによる「機械系事業の戦略的拡大」
- ・成長分野、成長市場での需要捕捉のため、他社提携やM&Aを視野に入れた事業展開の強化
- ・グループ連携や技術融合による新製品、新事業の拡大

### ◇電力供給事業の拡大

- ・栃木県真岡市に140万kW級のガス火力発電所建設推進(2019年～2021年稼動目標)
- ・神戸製鉄所 高炉跡地での電力供給事業の可能性検討

### ◇経営プラットフォームの検討

- ・事業構成やグループの出資形態などの変化にあわせた最適な経営体制等の検討

2013～2015

2016～